

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	現代社会
教科書	『高等学校 世界史A』曾田三郎他(第一学習社)
補助教材等	『プロムナード 世界史』(浜島書店)
学習上の留意点	
<p>この授業はノートに自分で書きながら進めていくので、その時にすぐ要点を押さえられるし、1つのテーマが終わればすぐ復習もやっていく。着実に学んでいけば取りこぼすことのないレベルの出題で試験を行うので再試はしない。そのためには授業中は教員の話を中心して聞き、自分で分かりやすいノートの取り方を工夫する事が必要。ノートに地図なども貼ってもらう事もあるので、各自のりなども用意しておくことよ。授業以外の事をしていると減点の対象とするので注意してほしい。なお、「達成度評価」の「その他」は練習問題プリントの提出であり、決められた期日は守るように。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>小学校中学校の頃から歴史は覚えることが多すぎて嫌いとか苦手だと思っている学生もいるかも知れないが、この授業では年号は目安として用いるくらいで、主に民族や国、文化や信仰などが起こり、発展し、あるものは滅び、あるものは現代に至るまで存在し続けている、その歴史的な流れを人物の紹介なども含めながら進めていくので、興味を持って授業に臨んで欲しい。</p> <p>グローバル化が進む現代では、自分や自国の視点からだけでなく、他者や他国の立場にも理解が及ぶ幅広い視野を判断することのできる人材が求められている。また、我々は1人で生きていく事はできないし、仕事の上でも多くの人との関わりが生まれてくるだろう。全ての国には「今」を形成するそれぞれに積み重ねられた歴史や文化・思考様式がある。それらを知る事は今後、多くの人と関係を結ぶ時のヒントを与えてくれるものとなり、人生を重ね、いろいろな事を思考する上でも参考になる事項も含まれると私は考えている。学生諸君にはこの授業で、これからの人生が豊かなものになるように、或いは人との良好な関係を築く際の助けになるような「何か」を感じ取って欲しいと期待します。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	・ガイダンス ・中国古典文明（Ⅰ）	・シラバスの説明 ・中国での農耕文明の始まり、王朝が起こり、殷王朝と周王朝で既に東アジアに現代まで伝わるような文化や考え方が生まれた事を説明できる。	当該箇所の復習
2	・中国古典文明（Ⅱ）	春秋戦国という政治的には統一を欠いた時代でありながら、道具の発展が人々の暮らしを向上させ、東アジア世界の精神・行動を形作る諸子百家の思想家が活躍した事を説明できる。	当該箇所の復習
3	・秦漢帝国（Ⅰ）	始皇帝による中国統一のやり方とそれに続く前後約400年にわたる漢王朝の統治システムについて説明できる。	当該箇所の復習
4	・秦漢帝国（Ⅱ）	前漢のピークである武帝の時代とそこから衰退する前漢、新、後漢へと続く王朝の移り変わりの変質について説明できる。	当該箇所の復習
5	・三国魏晋南北朝（Ⅰ）	中国としては分裂した時代になるが、それぞれがどのような施策を行い、日本にも影響を与えた事が説明できる。	当該箇所の復習
6	・三国魏晋南北朝（Ⅱ）	文化的には南北それぞれに素晴らしい文化が存在した事が説明できる。	当該箇所の復習
7	・隋王朝	中国を統一した隋王朝の政策を説明できる。	当該箇所の復習
8	・唐王朝（Ⅰ）	短命だった隋王朝を継いだ唐王朝の政策とその変化を説明できる。	当該箇所の復習
9	・唐王朝（Ⅱ）	唐王朝は政治面でも文化面でも国際的な影響力を持っていた事を説明できる。	当該箇所の復習
10	・中間試験	中間まとめとして試験を実施する。	学んだ内容の総復習を行い、試験に備える。
11	・試験返却と解答解説 ・古代オリエント（Ⅰ）	・試験解説により、間違った箇所を理解する。 ・四大文明のうち、エジプトとメソポタミアの存在の仕方、文明の違いについて説明できる。	当該箇所の復習
12	・古代オリエント（Ⅱ）	地中海東海岸の民族、特にイスラエル人について説明できる。	当該箇所の復習
13	・古代オリエント（Ⅲ）	ユダヤ教について説明できる。	当該箇所の復習
14	・イラン文明	アレクサンドロス大王の遠征後、イラン高原に興亡した王朝の移り変わりや東アジアにも影響を与えたイランの伝統文化について説明できる。	当該箇所の復習
期末試験			学んだ内容の総復習を行い、試験に備える。
15	・試験返却と解答解説 ・前期のまとめ	試験解説により、間違った箇所を理解する。 前期の学習事項のまとめを行う。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	・共和政ローマ	都市国家ローマの政治体制とローマが地中海エリアを支配するようになったプロセスとそれがもたらした社会の変化について説明できる。	当該箇所の復習
17	・キリスト教の成立と発展	キリスト教について説明できる。	当該箇所の復習
18	・帝政ローマ	周辺地域との関連からローマが帝政を取るようになり、ローマ帝国滅亡のプロセスとキリスト教との関係を説明できる。	当該箇所の復習
19	・イスラーム教とイスラーム世界の成立	イスラーム教の成立とイスラーム帝国の発展の過程を説明できる。	当該箇所の復習
20	・イスラーム世界の発展	イスラーム帝国が分裂し、諸民族が領内で自立し、イスラーム世界が拡大したことを説明できる。	当該箇所の復習
21	・西ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動の様子、その中からキリスト教会との結びつきを強め、現在の独・仏・伊の基礎となるフランク王国について説明できる。	当該箇所の復習
22	・ローマ教会の発展と十字軍	ヨーロッパとイスラーム世界の関わりについて説明できる。	当該箇所の復習
23	・中間試験	中間まとめとして試験を実施する。	学んだ内容の総復習を行い、試験に備える。
24	・試験返却と解答解説 ・唐から宋へ	・試験解説により、間違った箇所を理解する。 ・中国・唐王朝滅亡後の社会の変化について説明できる。	当該箇所の復習
25	・宋王朝と北方民族の発展（Ⅰ）	宋王朝の仕組みと北方民族の建国した国々との関係について説明できる。	当該箇所の復習
26	・宋王朝と北方民族の発展（Ⅱ）	宋王朝の社会や経済について、また文化について説明できる。	当該箇所の復習
27	・モンゴル民族の発展	モンゴル高原から次第に東西に大帝国を築いていくチンギス・ハンの一族のあり方を説明できる。	当該箇所の復習
28	・元王朝	モンゴル帝国のうち、中国を支配するようになった元王朝の支配とヨーロッパからやって来た人々について説明できる。	当該箇所の復習
29	・陸と海でつながる東西のエリア	特にユーラシア大陸は海と陸の両方でいろいろな商品や技術が運ばれ、行き来し深くつながるようになった事を説明できる。	当該箇所の復習
	期末試験		学んだ内容の総復習を行い、試験に備える。
30	・試験返却と解答解説 ・後期のまとめ ・授業改善アンケート	試験解説により、間違った箇所を理解する。 後期の学習事項のまとめを行う。 授業改善アンケートの実施。	
総 授 業 時 間 数			60 時間